

(全地方整備局・北海道開発局同時記者発表)

平成 23 年 7 月 28 日 (木)
国土交通省水管理・国土保全局

平成 22 年全国一級河川の水質現況の公表について

国土交通省では、昭和 33 年から一級河川（直轄管理区間）において水質調査を実施しています。この度、平成 22 年の全国一級河川 109 水系における水質状況^(※1)をとりまとめましたのでお知らせします。

<環境基準の達成状況>

一級河川（湖沼及び海域を含む）で、有機汚濁の代表的な指標である BOD 値又は COD 値が環境基準を満足した調査地点の割合は、91%となり、2 年連続で過去最高の割合となった。

<河川ランキング>

- ・ 水質改善状況に関するランキングで、過去 10 年間に BOD 値が大幅に改善されている河川は、大和川（大和川水系）及び綾瀬川（利根川水系）などであった。
- ・ 平均水質（BOD 値）ランキングで、全国一位となったのは以下 13 河川であった。雨竜川（北海道）、尻別川（北海道）、後志利別川（北海道）、沙流川（北海道）、荒川（福島）、姫川（新潟）、荒川（新潟）、安倍川（静岡）、大井川（静岡）、宮川（三重）、高津川（島根）、仁淀川（高知）、川辺川（熊本）

<泳ぎたいと思うきれいな川>

従来の BOD などの指標と異なり、ゴミの量や水のおいなど、人と河川のふれあいに関する新しい指標を用いて、住民との協働により、河川に近づきやすい地点で調査を実施した。その結果、調査地点の約 2 割（60 地点/320 地点）が「泳ぎたいと思うきれいな川」^(※2)と評価された。

(※1)本資料に掲載している地点以外にも、事業の影響予測や評価のために国土交通省において水質調査を実施している箇所もある。なお、それらの調査結果については、各地方整備局のHP等で公表している。

(※2)あくまでも水質に関する指標（ゴミの量、透視度、川底の感触、水のおい、糞便性大腸菌群数）により評価した結果であり、流れの状態や、川岸・川底の形状などの安全性については考慮していない。また、水浴場水質判定基準（環境省）における油膜の有無や COD 等の評価項目、その他の有害物質等による評価は行っていない。

問い合わせ先

国土交通省 水管理・国土保全局 河川環境課

課長補佐 空閑 健（内線 35-443）

水環境管理係長 金井 信宏（内線 35-482）

TEL 03-5253-8111（代表）、03-5253-8447（夜間直通）

＜添付資料一覧＞

http://www.mlit.go.jp/river/toukei_chousa/kankyo/kankyousuisitu/h230728/s01.pdf

1. 生活環境の保全に関する環境基準の満足状況・・・・・・・・・・ P. 1
2. 河川ランキング・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P. 2
 - (1) 過去 10 年間の水質改善状況によるランキング
 - (2) 平成 22 年の平均水質（BOD 値）によるランキング
3. 新しい水質指標による調査結果の概要・・・・・・・・・・ P. 4
泳ぎたいと思うきれいな川
4. 人の健康の保護に関する環境基準からみた水質状況・・・・・・・・ P. 7
5. ダイオキシン類からみた水質状況・・・・・・・・・・・・・・・・ P. 8
6. 水質事故等の状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P. 9

※詳細については、下記を参照

○平成 22 年全国一級河川の水質現況（速報版）

http://www.mlit.go.jp/river/toukei_chousa/kankyo/kankyousuisitu/h230728/s02.pdf

同時発表記者クラブ

北海道：北海道開発記者クラブ、北海道建設記者会

東 北：青森県政記者会、岩手県政記者クラブ、秋田県政記者会、宮城県政記者会、山形県政記者クラブ、福島県政記者クラブ、東北電力記者会、東北専門記者会

関 東：刀水クラブ・テレビ記者会、高崎記者クラブ、栃木県政記者クラブ、茨城県政記者クラブ、土浦記者クラブ、鹿島記者クラブ、埼玉県政記者クラブ、川越新聞記者会、千葉県政記者会、東京都庁記者クラブ、竹芝記者クラブ、神奈川県政記者クラブ、神奈川建設記者会、横浜海事記者クラブ、山梨県政記者クラブ

北 陸：新潟県政記者クラブ、新潟県政記者クラブ、富山県政記者クラブ、石川県政記者クラブ、福島県政記者クラブ、長野市政記者クラブ

中 部：中部地方整備局記者クラブ、愛知県政記者クラブ、静岡県政記者クラブ、岐阜県政記者クラブ、三重県政記者クラブ、飯田市記者クラブ、駒ヶ根市記者クラブ、伊那市記者クラブ

近 畿：近畿建設記者クラブ、大手前記者クラブ、滋賀県政記者会、京都府政記者会、福知山市政記者クラブ、綾部新聞記者クラブ、舞鶴市政記者クラブ、宮津市市政記者クラブ、兵庫県政記者クラブ、姫路市政記者クラブ、兵庫県但馬県民局県政記者クラブ、豊岡市政記者クラブ、奈良県政・経済記者クラブ、五條市政記者クラブ、和歌山県政記者クラブ、和歌山県地方新聞社協会記者クラブ、和歌山県政放送記者クラブ、新宮記者クラブ・新宮中央記者会、福井県政記者クラブ、三重県政記者クラブ、名張市政記者クラブ、伊賀記者会、熊野市記者クラブ

中 国：合同庁舎記者クラブ、鳥取県政記者会、鳥取市政記者会、米子市政記者クラブ、島根県政記者会、岡山県政記者会、広島県政記者クラブ、山口県政記者クラブ、山口県政記者会、山口県政滝町記者クラブ、中国地方建設記者クラブ

四 国：高松経済記者クラブ

九 州：国土交通省九州記者会、建設専門記者クラブ、直方記者クラブ、飯塚記者クラブ、田川記者クラブ、北九州記者クラブ、中津市政経済クラブ、大分県政記者クラブ、佐伯記者クラブ、延岡記者クラブ、宮崎県政記者クラブ、鹿児島県政記者クラブ、川内記者クラブ、えびの市記者クラブ、八代記者クラブ、人吉記者クラブ、熊本県政記者クラブ、玉名記者クラブ、久留米市役所記者クラブ、日田市役所記者クラブ、佐賀県政記者クラブ、諫早市記者クラブ

1. 生活環境の保全に関する環境基準の満足状況

平成22年は、BOD（またはCOD）値が環境基準を満足している地点の割合は91%となり、2年連続で過去最高の割合となった。

一級河川（湖沼及び海域を含む。）において、生活環境の保全に関する環境基準項目のうち、BOD（生物化学的酸素要求量）またはCOD（化学的酸素要求量）の環境基準を満足している地点の割合は、平成22年で91%（918地点/1,005地点）となり、2年連続で過去最高の割合となった。

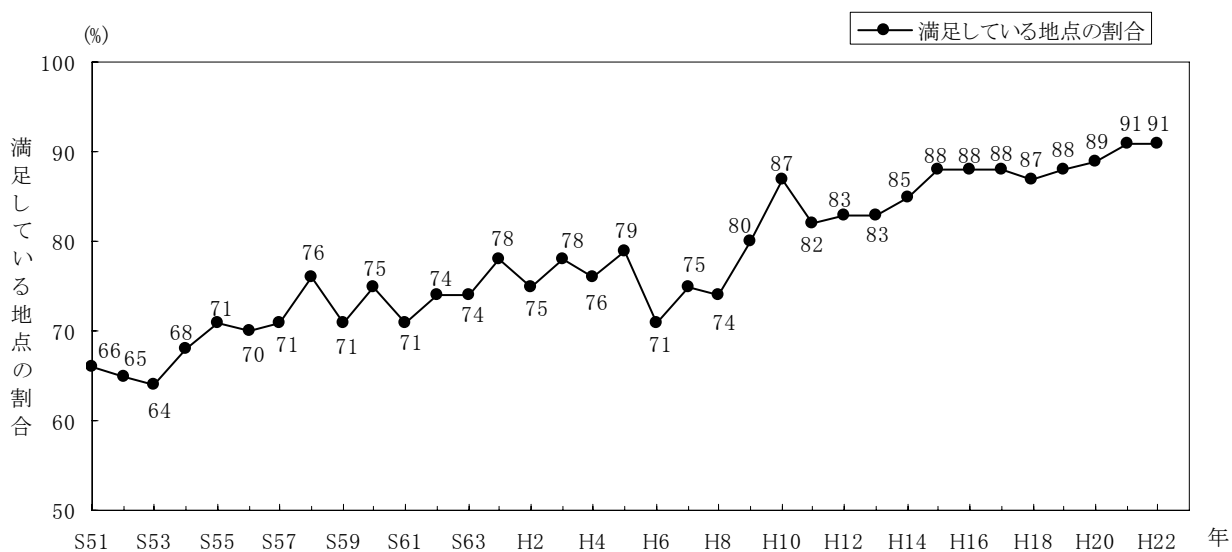


図-1 一級河川（湖沼及び海域を含む。）において
環境基準を満足している地点の割合

なお、平成22年にBOD（またはCOD）値が環境基準を満足している地点の割合について、地点の種類別に見ると、河川のみでは97%（882地点/907地点）、湖沼のみでは36%（35地点/96地点）であった。

2. 河川ランキング^{注1)}

(1) 過去10年間の水質改善状況によるランキング

過去10年間にBOD値が大幅に改善されている河川は、大和川（大和川水系）及び綾瀬川（利根川水系）などであった。

平成21年と平成22年の2ヶ年の河川毎のBOD値の平均と、平成11年と平成12年の2ヶ年の河川毎のBOD値の平均から、10年間の水質改善幅による河川の水質改善状況を比較すると、大和川、綾瀬川、鶴見川及び中川で大幅に水質が改善されている状況が見られる。

表-1 2ヶ年平均BOD値の改善幅による過去10年間の水質改善状況

順位	地方名／河川名（水系名）	都道府県名	（参考） 平成元、2年 BOD平均値 (mg/ℓ)	平成11、12年 BOD平均値 (mg/ℓ)	平成21、22年 BOD平均値 (mg/ℓ)	2ヶ年平均 水質改善幅 (mg/ℓ)
1	近畿／大和川（大和川水系） <small>やまとがわ やまとがわすいけい</small>	大阪、奈良	8.9	7.0	3.0	4.0
2	関東／綾瀬川（利根川水系） <small>あやせがわ とねがわすいけい</small>	埼玉、東京	15.4	7.5	3.7	3.8
3	関東／鶴見川（鶴見川水系） <small>つるみがわ つるみがわすいけい</small>	神奈川	6.7	5.2	2.7	2.5
4	関東／中川（利根川水系） <small>なかがわ とねがわすいけい</small>	埼玉、東京	4.9	5.0	3.2	1.8

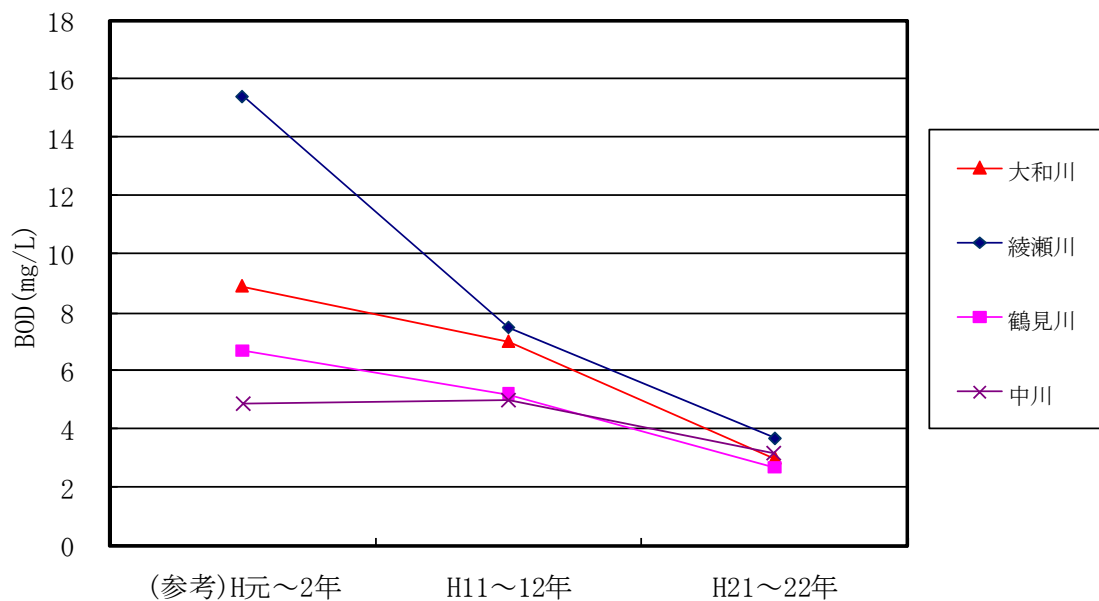


図-2 水質改善状況過去10年間の上位5河川の水質傾向

注1) 以下の条件を満たす165河川について、各調査地点のBOD平均値の平均（同じ値の場合はBOD75%値の平均）が小さい順に、河川の順位付けを行った。

- ・一級河川本川:直轄管理区間に調査地点^(※)が2以上ある河川
- ・一級河川支川:直轄管理区間延長が概ね10km以上、かつ直轄管理区間に調査地点が2以上ある河川

(※) 湖沼類型指定、海域類型指定の調査地点及びダム貯水池は含まない。

(2) 平成22年の平均水質 (BOD値) によるランキング

最も水質が良好な河川は、雨竜川、尻別川、後志利別川、沙流川、荒川 (阿武隈川水系)、姫川、荒川 (北陸・荒川水系)、安倍川、大井川、宮川、高津川、仁淀川、川辺川の全13河川であった。

宮川と川辺川は5年連続、姫川は3年連続、尻別川、後志利別川、沙流川は2年連続、荒川 (阿武隈川水系) と荒川 (北陸・荒川水系) は2年ぶり、高津川は3年ぶり、安倍川は4年ぶり、雨竜川、大井川、仁淀川は初めて最も水質が良好な河川となった。

人の手が入っていない河川並の水質とされるBOD平均値1.0mg/ℓ未満の河川は、平成22年において92河川であり、順位付け対象河川 (165河川) の56%を占めている。

表-2 BOD値による河川の水質状況 (水質上位河川)

年	順位	地方名 / 河川名 (水系名)	都道府県名	BOD (mg/ℓ)	
				平均値	(75%値)
平成22年	1	北海道 / 雨竜川 (雨竜川水系)	北海道	0.5	(0.5)
		北海道 / 尻別川 (尻別川水系)	北海道		
		北海道 / 後志利別川 (後志利別川水系)	北海道		
		北海道 / 沙流川 (沙流川水系)	北海道		
		東北 / 荒川 (阿武隈川水系)	福島		
		北陸 / 姫川 (姫川水系)	新潟		
		北陸 / 荒川 (荒川水系)	新潟		
		中部 / 安倍川 (安倍川水系)	静岡		
		中部 / 大井川 (大井川水系)	静岡		
		中部 / 宮川 (宮川水系)	三重		
		中国 / 高津川 (高津川水系)	島根		
		四国 / 仁淀川 (仁淀川水系)	高知		
		九州 / 川辺川 (球磨川水系)	熊本		
平成21年	1	北海道 / 尻別川 (尻別川水系)	北海道	0.5	(0.5)
		北海道 / 後志利別川 (後志利別川水系)	北海道		
		北海道 / 鷗川 (鷗川水系)	北海道		
		北海道 / 沙流川 (沙流川水系)	北海道		
		北陸 / 姫川 (姫川水系)	新潟		
		北陸 / 黒部川 (黒部川水系)	富山		
		中部 / 宮川 (宮川水系)	三重		
		九州 / 川辺川 (球磨川水系)	熊本		





3. 新しい水質指標による調査結果の概要

従来のBODなどの指標と異なり、ゴミの量や水のおいなど、人と河川のふれあいに関する新しい指標を用いて、住民との協働により、河川に近づくやすい地点で調査を実施した。

平成22年は、約19%（60地点/320地点）が「泳ぎたいと思うきれいな川」^{注2)}と評価された。

国土交通省では、河川をBODなどの環境基準だけでなく多様な視点で評価するための指標について検討し、「今後の河川水質管理の指標について（案）」を平成17年3月にとりまとめた^{注3)}。新しい水質指標（河川）は、「人と河川の豊かなふれあいの確保」などの視点からなり、評価項目の一部を住民と河川管理者とが協働で調査することとしている（表-3）^{注4)} ^{注5)}。

表-3 人と河川の豊かなふれあいの確保（赤枠内は住民と協働調査）

ランク	説明	ランクのイメージ	評価項目と評価レベル					
			全国共通項目				地域特性項目	
			ゴミの量	透視度 (cm)	川底の感触	水のおい		糞便性大腸菌群数 (個/100mL)
A	顔を川の水につけやすい (泳ぎたいと思うきれいな川)		川の中や水際にゴミは見あたらない または、ゴミはあるが全く気にならない	100以上	快適である		100以下	・住民と共に独自に設定 ・文献等から設定
B	川の中に入って遊びやすい		川の中や水際にゴミは目につくが、我慢できる	70以上	不快感がない	不快でない	1000以下	
C	川の中には入れないが、川に近づくことができる		川の中や水際にゴミがあつて不快である	30以上	不快である	水に鼻を近づけると不快な臭いを感じる	1000を超えるもの	
D	川の水に魅力がなく、川に近づきにくい		川の中や水際にゴミがあつてとても不快である	30未満		水に鼻を近づけるととても不快な臭いを感じる		

注2) Aランク（顔を川の水につけやすい（泳ぎたいと思うきれいな川））と評価された調査地点。あくまでも水質に関係する指標（ゴミの量、透視度、川底の感触、水のおい、糞便性大腸菌群数）により評価した結果であり、流れの状態や、川岸・川底の形状などの安全性については考慮していない。また、水浴場水質判定基準（環境省）における油膜の有無やCOD等の評価項目、その他の有害物質等による評価は行っていない。

注3) 平成21年3月に「今後の河川水質管理の指標について（案）」を一部改訂し、平成21年度の調査より適用している。http://www.mlit.go.jp/river/shishin_guideline/kankyo/suishitsukanri/shiyou.pdf

注4) 評価項目ごとにA～Dランクの4段階の評価ランクを決めた上で、まず調査回ごとに最も低い項目別評価ランクを、その地点のその調査時の総合評価ランクとする。

注5) 1年間の調査時の総合評価ランクのうち最頻ランクを、その地点の年間の総合評価ランクとする。

①調査結果

平成22年は、「人と河川の豊かなふれあいの確保」の視点から、約19%（60地点/320地点）が「泳ぎたいと思うきれいな川」と評価された。

表-4 新しい水質指標（河川）による年間の総合評価ランク別の地点数

	人と河川の豊かなふれあい	
	地点数	割合
Aランク	60	19%
Bランク	139	43%
Cランク	100	31%
Dランク	21	7%
計	320	100%

※四捨五入による端数処理のため内訳の合計が100%にならないことがある。

②調査への住民参加

新しい水質指標（河川）による調査における「人と河川の豊かなふれあいの確保」の視点による調査は、212地点で約7,000人の住民に参加いただいた。

参加人数が最も多かった調査地点は、乙津川（大野川水系）／水辺の楽校（大分県）であった。

【人と河川の豊かなふれあいの確保】

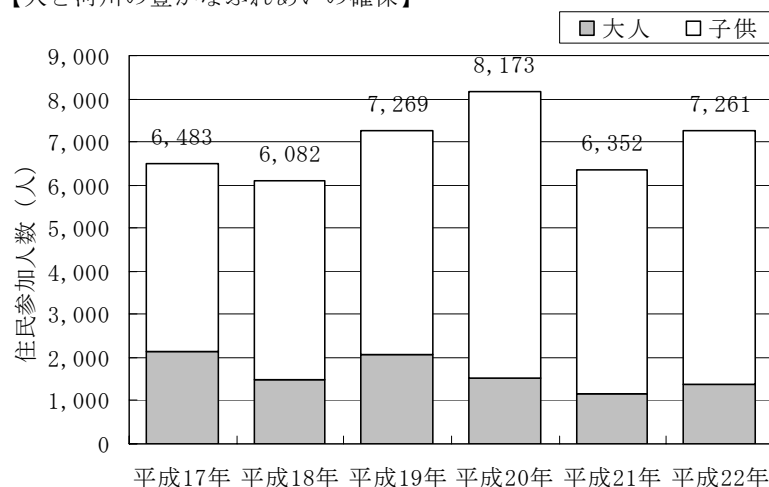


図-3 平成17年～平成22年の住民参加者数の推移

表-5 住民参加人数が特に多かった調査地点

ランク	都道府県	河川名（水系名）／調査地点名	参加人数
1	大分県	乙津川（大野川水系）／水辺の楽校	266
2	奈良県	大和川（大和川水系）／御幸大橋	230
3	山口県	佐波川（佐波川水系）／新橋	207
4	長崎県	本明川（本明川水系）／鉄道橋	196
5	愛知県	矢田川（庄内川水系）／天神橋	194

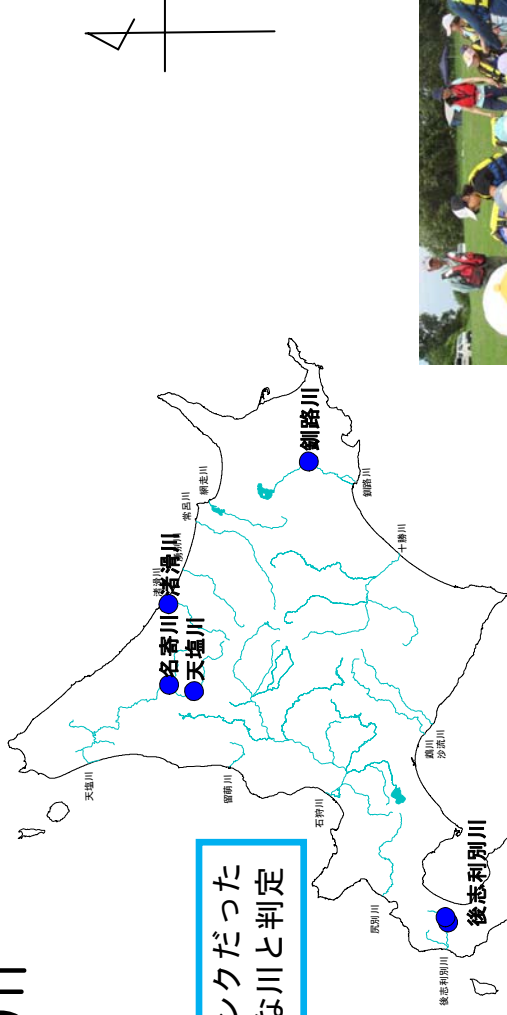
※表中の参加人数は、年間通じた延べ人数。
それぞれの調査地点では、年間1～3回の調査を実施した。

泳ぎたいと思いきれいな川

人と河川の豊かなふれあいの確保の評価項目と評価レベル

ランク	説明	ランクのイメージ	評価項目と評価レベル				糞便性 大腸菌群数 (個/100mL)
			ゴミの量	透視度 (cm)	川底の感触	水のおい	
A	顔を川の水につけやすい (泳ぎたいと思いきれいな川)		川の中や水際にゴミは見あたらない または、ゴミはあるが 全く気にならない	100以上	快適である	水のおい	100以下
B	川の中に入って 遊びやすい		川の中や水際に ゴミは目につくが、 我慢できる	70以上	不快感がない	不快でない	1000以下
C	川の中に入れない が、川に近づくと できる		川の中や水際に ゴミがあって 不快である	30以上	不快である	水に鼻を近づけると不快な臭いを感じる	1000を超えるもの
D	川の水に魅力がなく、 川に近づきにくい		川の中や水際に ゴミがあって とても不快である	30未満	不快である	水に鼻を近づけるととても不快な臭いを感じる	

測定した全ての評価項目がAランクだった場合に、泳ぎたいと思いきれいな川と判定



北海道 天塩川



東北 赤川



関東 神流川



北陸 庄川



中部 安倍川



近畿 九頭竜川



中国 佐波川



四国 仁淀川



九州 緑川

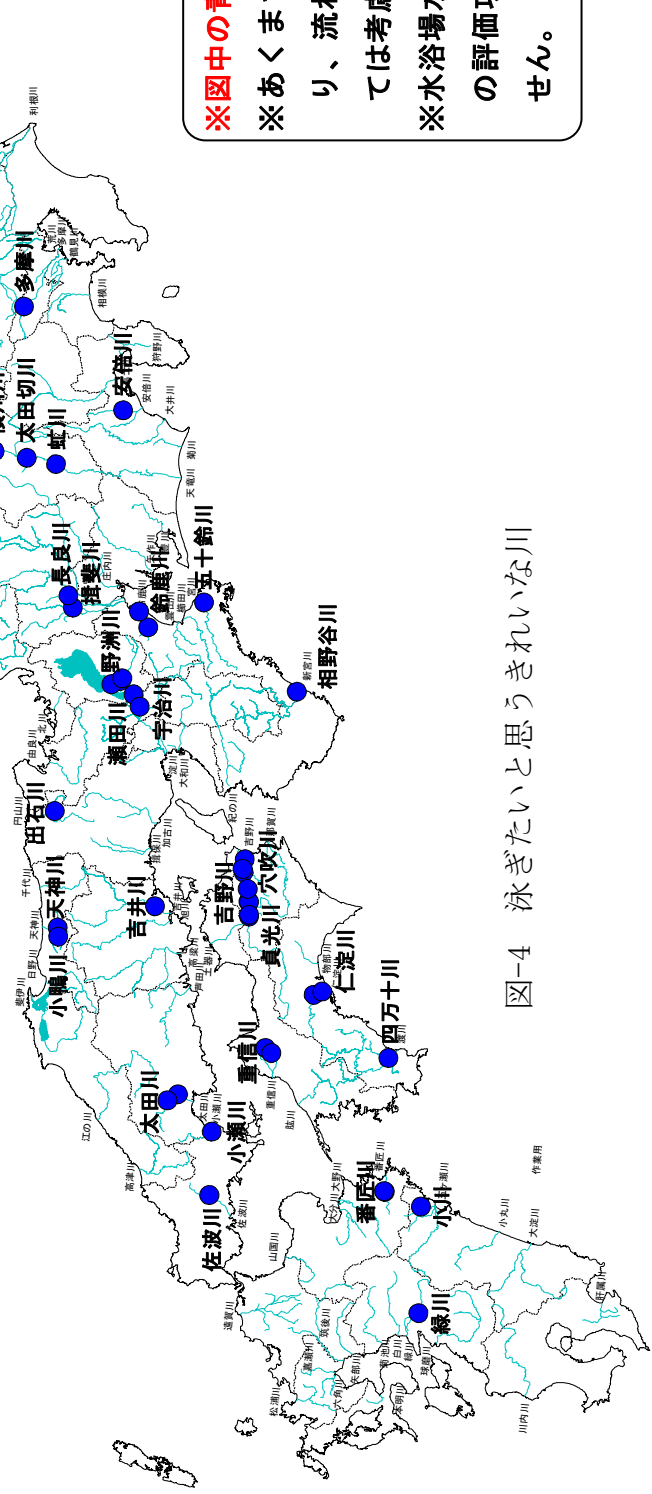


図-4 泳ぎたいと思いきれいな川

※図中の青丸は、年間の総合評価ランクがAランクの地点。
 ※あくまでも水質に関係する指標により評価した結果であり、流れの状態や、川岸・川底の形状などの安全性については考慮していません。
 ※水浴場水質判定基準（環境省）における油膜の有無やCOD等の評価項目、その他の有害物質等による評価は行っていません。

4. 人の健康の保護に関する環境基準からみた水質状況

人の健康の保護に関する環境基準（健康項目）について、平成22年は、調査地点の約99%が環境基準を満足していた。

平成22年における健康項目全体の環境基準達成率は99%（前年99%）となっており、ほとんどの地点で達成した。

環境基準超過がみられたのは、鉛、砒素、総水銀、ふっ素及びほう素の5項目であった。原因としては全て自然由来によるものであった。

表-6 健康項目の水質調査結果

項目名	調査地点数	調査検体数	超過地点数
カドミウム	778	2,306	—
全シアン	760	2,204	—
鉛	839	3,233	2
六価クロム	761	2,168	—
砒素	837	3,170	2
総水銀	765	2,271	1
アルキル水銀	138	263	—
PCB	634	847	—
ジクロロメタン	643	1,297	—
四塩化炭素	656	1,219	—
1,2-ジクロロエタン	642	1,217	—
1,1-ジクロロエチレン	640	1,190	—
シス-1,2-ジクロロエチレン	644	1,223	—
1,1,1-トリクロロエタン	657	1,239	—
1,1,2-トリクロロエタン	641	1,197	—
トリクロロエチレン	680	1,341	—
テトラクロロエチレン	679	1,371	—
1,3-ジクロロプロペン	642	1,138	—
チウラム	644	1,094	—
シマジン	644	1,110	—
チオベンカルブ	642	1,093	—
ベンゼン	641	1,242	—
セレン	659	1,276	—
硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素	692	4,462	—
ふっ素	662	1,682	1
ほう素	643	1,492	9
1,4-ジオキサン	485	720	—
合計	17,748	43,065	15

5. ダイオキシン類からみた水質状況

平成22年度は、ダイオキシン類の調査地点の約98%が環境基準を満足していた。

平成11年度から、「ダイオキシン類対策特別措置法」で定義されているダイオキシン類について、全国一級水系で継続的に水質と底質の調査を実施している。

平成11年度以降、水質については、ほとんどの地点が環境基準（1.0pg-TEQ/ℓ以下）を満足しており、平成22年度は、約98%（207地点／212地点）が環境基準を満足していた。また、底質については、全ての地点で環境基準（150pg-TEQ/ℓ以下）を満足していた。

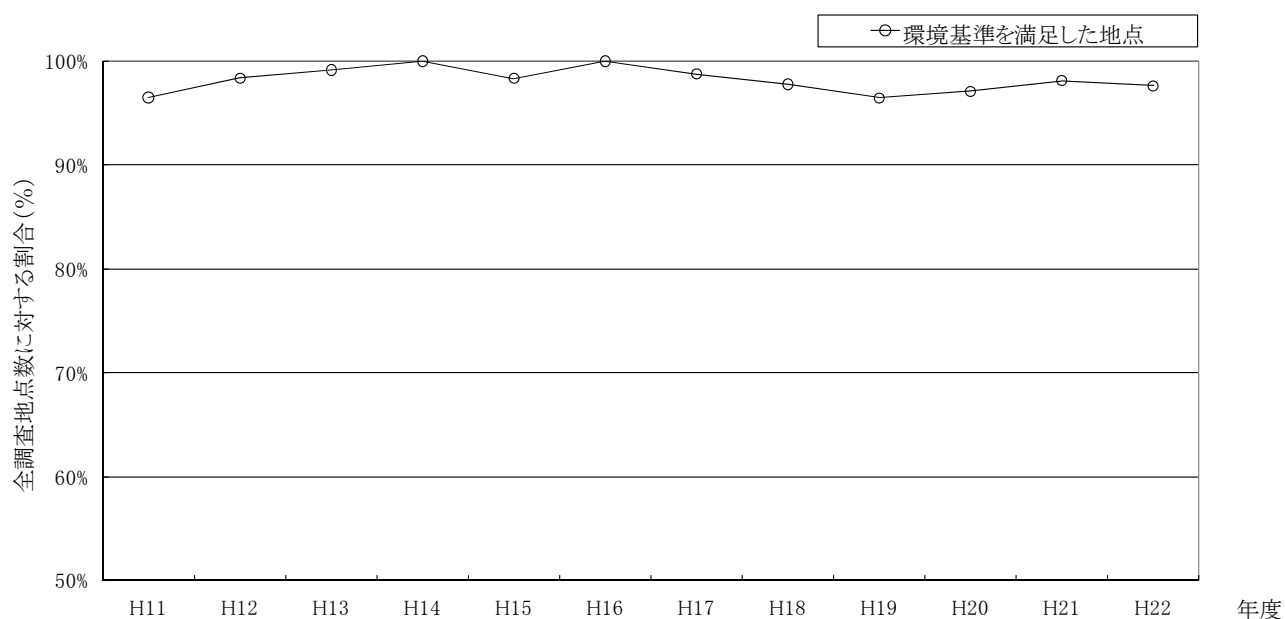


図-5 ダイオキシン類の水質調査で環境基準を満足した地点

6. 水質事故等の状況

平成22年の水質事故の発生件数は1,384件で、平成19年以降、概ね横ばいである。

水質事故の発生件数は平成18年まで毎年増加していたが、その後は概ね横ばいである。平成22年は平成21年より35件増加した。

一方、上水道の取水停止を伴う重大な事故の発生件数は36件であった。なお、給水停止に至った事例はない。

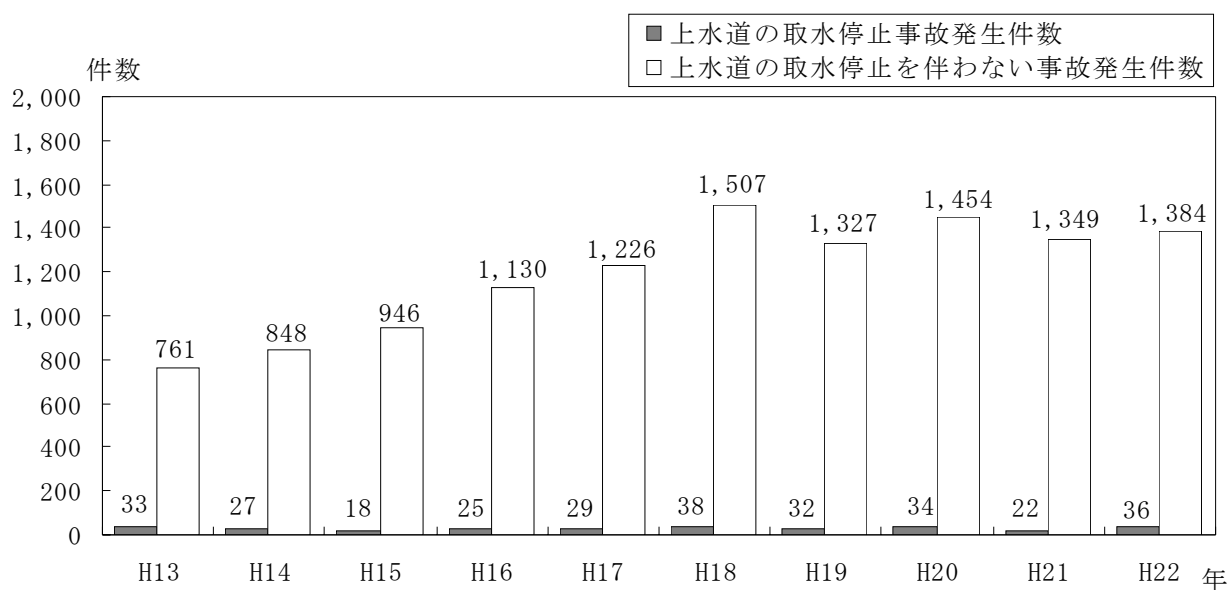


図-6 水質事故発生件数と上水道の取水停止事故発生件数の推移